

コスタリカ内政・外交主要事項（2018年9月）

2018年9月の当国内政・外交主要事項を以下のとおり報告申し上げます。

【要旨】

内政

●財政改革法案に反対する公務員労組によるストライキが勃発し、長期化。道路の封鎖やデモ行進が発生した他、リモン県などの地方では一時的に治安が悪化する事態となった。政府、労働組合、仲介役としての教会側の三者会合が断続的に数日間にわたって行われ、ようやく正式な対話の場を設けることに合意。しかし、一部の労働組合員は同合意に反発を示すなど混乱が続いている。

外交

●長引く公務員労組ストを受けて、アルバラード大統領は第73回国連総会への出席を断念。キャンベル第一副大統領兼外相（以下副大統領）がコスタリカの首席代表として出席した。エスカス合意署名式出席や、グテーレス国連事務総長との会談など要人との会談・イベントへの出席を精力的に実施した。

●キャンベル副大統領が米州機構（OAS）常設理事会に出席するため、訪米。アルマグロOAS事務総長と会談を行った。

I 内政

1 財政改革法案に反対するストライキの実施

（1）10日から、公務員の労働組合が財政改革法案に反対するストライキを実施。実施当初は公共サービスに大きな影響は無かったが、12日に、国会に向かって大規模な行進が発生。さらに同日夜には、大学生グループと警察の間で小競り合いが起きるなど、次第にストは規模が拡大し深刻さを増した。リモン県を中心とする地方では、ストに乗じた商店略奪や暴力行為も発生する事態に陥った。

（2）特に多くの影響が出ているのは、医療及び教育分野であり、病院での緊急でない手術・問診のキャンセルや、授業が数週間以上行われないう等の問題が生じている。特に、高校生は卒業試験を控えているにも関わらず、授業が通常通り行われず、教育省は学生に自主学習を行うよう呼びかけた。また、石油精製公社（Recope）がストを行ったことで、ガソリンの供給が滞る事態が発生。さらには、ストを懸念して寄港予定だったクルーズ船がコスタリカに立ち寄らないケースもでており、観光業にも深刻な影響を与えている。

（3）19日から、司教ら教会側を仲介として、政府側と労組側の間で財政改革法案に関する予備交渉が開始されたが、連日に渡る長時間の話し合いの末、ようやく財政改革法案に関する本格的な対話の場を設けることで一致。しかしながら、一部の労働組合が、同決定に反発し、ストを継続するなど、未だ混乱が沈静化していない。

（4）その一方で、裁判所は、いくつかの政府系機関（国立生産審議会、住宅省等）

職員が行ったストに関しては、合法的なスト成立のための要件を満たしていないとして「違法」を宣言。全部で34の政府系機関がストが違法かどうかの審査を裁判所に申請しており、裁判所は引き続き審査を行っていく予定。

2 ソリス元大統領による国家歳出・歳入委員会への出席

20日、ソリス前大統領は、国会の歳入・歳出委員会に出席し、前政権で予算に計上されていなかった6千億コロン（約1.2億円相当）の債務に関する釈明を行った。同委員会において、ソリス大統領は、任期中その債務に関する説明は一切財務省当局から行われず、彼らこそ予算を作成している責任者であるとして、暗にこの件に関する責任を否定した。

ソリス元大統領は終始落ち着いた様子で、用意しておいたスピーチに則って発言をするのみに留めたため、野党議員からは、その姿勢への反発もあり、前政権は非常に無責任だったとの批判の声もあがった。

II 外交

1 二国間関係

(1) 対ニカラグア関係

5日、9月の国連安保理理事国議長（米国）がニカラグア情勢を議論するための安全保障理事会会合を招集し、理事国15カ国に加え、コスタリカ、ニカラグア、ベネズエラ、ニカラグア市民社会（NGO）が参加した。同会合において、コスタリカはニカラグアが直面する危機への解決に国際社会が共に取り組むよう呼びかけ、ニカラグア政府に対しては、かかる状況に対する迅速な対応を要請した。

また、11日にジュネーブにおいて、コスタリカ他36カ国が集まり、国連人権理事会を開催。理事会はニカラグア政府に対し、事態を収束させ、市民に対する武力の行使を止めるよう求めた。また、ニカラグア政府が国連高等人権弁務官事務所の派遣団を国外退去させたことを非難した。

さらに、12日に開催された米州機構（OAS）常設理事会も、ニカラグア政府に平和的な解決方法をとるよう求めた。（下記II 2参照）。

(2) 対中関係

3日、エプシー・キャンベル第一副大統領兼外務大臣は、湯恒・駐コスタリカ中国大使との間で、シルクロード経済回廊と21世紀海洋シルクロードとからなる、通称、一带一路構想の促進のための協力に関する覚書に署名した。同覚書を通じ、コスタリカと中国は、発展・計画・政治に関する主要戦略、投資・貿易・産業等において連携を強化していくことになる。

同副大統領は、今回署名された覚書は、2007年の両国の国交樹立以来築き上げられ、両国の政治・経済関係を深化させてきた信頼関係の成果であると述べ、湯大使も二国間関係の深化を祝福し、今般の覚書への署名は、両国間の協力を一層強力に推進する新たな動力源になりうると述べた。

(3) 対ベネズエラ関係

27日、国連人権理事会において、初めてベネズエラ情勢に関する決議が採択された。コスタリカは、他の中南米12の国々と共に同決議の採択を推進した。同決議では、人権侵害を受けているベネズエラ国民を保護する必要性を強調すると共に、ベネズエラ政府に対する人道支援を実施する可能性について言及した。近々、国連高等人権弁務官事務所がベネズエラ情勢にかかる報告書を国連人権理事会に提出する予定。

(4) 対北朝鮮関係

24日、コスタリカは18日から20日の間に平壤で開かれた南北首脳会談を歓迎し、朝鮮半島の非核化および平壤宣言の履行について高い関心を有している旨を表明した。

2 キャンベル第一副大統領兼外相の外遊

(1) OAS常設理事会への出席

17日から19日まで、キャンベル副大統領は、特別会期中に開かれた米州機構(OAS)常設理事会に参加するため訪米。常設理事会では、「女性による闘争に関する便覧」が発表され、キャンベル副大統領はジェンダー間の構造的差別を解消していくことの重要性を訴えた。

また、アルマグロOAS事務総長と会談を行い、ニカラグアとベネズエラで発生している経済的、政治的及び社会的危機に対する懸念を共有した。さらに、アブラオ米州人権委員会事務局長とも会談を行い、コスタリカの37の公的機関が作成した「移民流入に対応するための総合プラン」について話し合った。

訪米中、キャンベル副大統領は、NPOグループ、「Trust for the Americas」のエドゥルマン局長とも意見交換を実施。同グループは、ニカラグア暴動以降増大したコスタリカへのニカラグア人移民流入に関して、コスタリカ政府を援助すると発表した。

さらに、モリソン・米州開発銀行(IDB)ジェンダー・多様性課長と意見交換を行い、コスタリカとIDBが共に、女性の経済的・政治的エンパワーメントを推進することで一致した。

(2) カナダ政府主催女性外相会合への出席

22日、キャンベル外相は、カナダのモントリオールで開催されたフリーランド加外相及びモゲリーニEU外務・安全保障政策上級代表主催の女性外相会合に出席した。会合には、グアテマラ、ホンジュラス、ケニア等18カ国から女性外相が参加した。会合では、政治や経済、その他あらゆる社会の領域における女性の参画や、平和構築において女性が果たす役割等のテーマについて話し合われた。

また、キャンベル外相は、カナダ滞在中、エリクセン・ノルウェー外相と二国間会談を実施し、人権や教育、ジェンダーの平等性等のテーマにおける二国間協力の可能性について話し合った他、ジュマ・ケニア外相とも二国間会談を行い、環境保護や持続可能な開発等のテーマについて議論を行った。

(3) 第73回国連総会への出席

国内でのストに対応するため、アルバラード大統領が国連総会への出席をとりやめたため、キャンベル副大統領が首席代表として、24日から28日にかけて、第73回国連総会に出席。一般討論演説を行った他、様々な行事に参加した。

一般討論演説では、女性のエンパワーメントの必要性や北朝鮮情勢について取り上げると共に、軍縮はコスタリカにとって主要な外交の柱の一つであるとして、核兵器禁止条約の批准を加盟国に呼びかけた。また、ニカラグア及びベネズエラで生じている人権侵害や暴力行為に対する深い懸念を表明した。

国連総会のマージンでは、様々な要人と意見交換・会談を行った。バチエレ国連人権高等弁務官との会談では、ニカラグア情勢について話し合うと共に、先住民、アフリカ系、LGBTの人々等のテーマについて議論を交わした。また、グテーレス国連事務総長とも会談を行い、コスタリカが推進してきた「家族農業に関する10年」に関して、その重要性を国際社会へ発信していくことで一致した。さらに、レゲンバヌ・バヌアツ外相と会談を行い、コスタリカとバヌアツの間の外交関係を樹立させた。

また、同副大統領は、様々なサイドイベントに精力的に参加。コスタリカが主導した「ラ米・カリブ地域の環境分野における情報へのアクセス、市民の参加、司法へのアクセスにかかる地域合意」（通称エスカス合意）の署名式では、コスタリカを初めとするラ米・カリブの国12カ国が参加し、環境分野における市民の情報へのアクセス権等の人権について定められた。また、核兵器完全廃絶のための国際デーにも参加し、軍縮と不拡散を全ての国が履行するようコスタリカは努力を続けていく旨宣言した。

その他、キャンベル副大統領が行った主な会談及びサイドイベントは以下のとおり。

●二国間会談：ラタス・エストニア首相との会談、ヘンリー・ウガンダ外相との会談、

●イベント：ネルソン・マンデラ平和サミット、「全ての人のための同盟（For All Coalition）」に関するイベント、家族農業に関する10年閣僚級会合